

第 1 学年 道徳学習指導案

- 1 主題名 望みをかなえる脳
- 2 内容項目 向上心、個性の伸長（A－3）、 ※関連項目 希望と勇気、克己と強い意志（A－4）
- 3 資料名 「アテネオリンピック 男子 100m 平泳ぎ」（映像 1）
『脳トリック（プラス思考）』（映像 2）
- 4 ねらい（視点） この学級は級友や教師の投げかけに対して素直に反応できる生徒が多い、いわゆる「元気の良い学級」である。しかし、時には相手の気持ちを考えない、行事などの取組に前向きさが見られないなどという言動も見られ、雰囲気作りや指導に苦労することもある。
本時は、水泳選手北島康介氏の成功と挫折、脳科学研究からの「プラス思考」の映像を題材にし、プラスの考え方やものの見方・言葉を使うことで、脳の能力を伸ばし、学級全体の雰囲気を良いものとしていくことにつなげたい。また、そのような「プラス思考」という脳の使い方を実践することで、学習や部活動など学校生活の様々な場面で役立て、自らの前向きな行動がよりよい成果につながっていくという意識をもたせたい。

5 本時の展開

	学習内容	発問と生徒の活動
導入	①北島選手の紹介をする	○この人は誰でしょう？ →「北島康介」、「水泳の選手」、「金メダリスト」など ○映像 1 を見せ、実績を紹介する。今日は、この北島選手が実践してきたことから、自分たちの生活に役立てられることが無いかな、考えてみよう。
展開	②どうすれば結果を出せるか考える ③マイナスの言動の影響を考える	○勝負で勝つために、（部活でも勉強でも）結果を出すために必要なことは何か。 →「練習」、「たくさん勉強する」 ○北島選手のアテネオリンピック後のスランプについて、その後ある講義を受けたこと、北京で再び金メダルを取ったことを説明する。 ○北島選手が受けた講義は、体のある部分の使い方に関する講義ですが、それはどこか。 →「手」、「足」、「心」など ○脳に関する講義を受けたことを説明する。 ○授業や部活動にはきちんと参加しているが「どうせ無理だ、勝てない」「自分にはできない」のような気持ちになった経験を問いかける。 ○ワークシートを配付し、設問 1 と 2 を考えて記入させる。 ○教師が 3 の部分を読み、脳のしくみについて説明する。（脳の拡大図を見せて説明） ○映像 2 を見せる。 【中心発問】 自分たちの経験から、プラスの言動には、どのようなものがあるだろうか。 また、日常のどのような場面でプラスの言動を使えるだろうか。
	④プラスの言動の影響を考える	○プラスの言動と、どのような場面で使えるか考えて記入させる。 ○ワークシートをもとに班で交流し、班のまとめをするように指示する。 ○班でまとめたものを班長が発表し、学級全体で共有する。
まとめ	⑤本時のまとめをし、感想を記入する	○各班からの発表の内容から、ココロのコントロールの仕方を考えて行動していくと、自分をプラスに変えていくことにつながることにふれ、本時の感想を記入し、数人に発表させる。

- 1 あなたは今まで、嫌々やってまったく頭に入らなかった、うまくできなかったという経験がありますか？
それはどんなときですか？

- 2 「マイナスの言動」にはどんなものがあるでしょうか？

- 3 脳の仕組みについて、少し勉強してみよう。

情報はいったん前頭前野から一番遠い所に入ります。そしてA10神経群に伝えられ、思考・判断をする前頭葉へおくられます。ここを通る間にこの情報は好き、嫌い、おもしろい、おもしろくないと感情のレッテルを貼ります。マイナスのレッテルを貼られると脳は働かなくなり、思考・判断されにくくなってしまいます。

逆に、見たり聞いたりしたことに対して興味をもったり、好きになったり、感動して人の話を聞くことは脳の活性化に役立ち、機能を最高に生かすことができます。

- 4 プラスの言動にはどんなものがあるでしょうか。

- 5 どんな場面でプラスの言動を使うと効果的でしょうか。部活動、行事、授業など、様々な場面を想定し、記入したものを交流してみましょう。

- 6 授業の感想を書きましょう。